

今月のことば

自らの正義に とらわれた時 争いが起こる

(小池秀章)

龍谷大学非常勤講師

こいけ ひであき
小池秀章

「正義とは何か」、これは難しい問いだと思います。『法律用語辞典(第5版)』には、正義とは、「正しいすじみち。人の行うべき正しいこと。何が正義かについては、普遍的正義の発見への努力も行われてきたが、時代により、また依拠する立場により、それぞれ異なり、法令上も特定の内容を示すものではない。」とありました。普遍的正義というものはなく、時代や何を依りどころにするかという立場によって異なるということです。

では、私たちはどのような立場に立って正義を考えているのでしょうか。おそらく、自分は正しいという立場に立っているのではないのでしょうか。ですから、多くの場合、自分の正義と他人の正義がぶつかるのです。

「戦争は、正義と正義が戦っている」と言った人がいます。私たちは無意識のうちに、戦争は正義(善)と悪が戦っていると思っています。しかし、そうではないのです。お互いが自らの正義をかけた、相手を悪と見なし、戦っているのです。日常生活の争いも、その構造は一緒で、自らの正義にとらわれた時、争いが起こるのです。

仏さまの教えは、「自分は常に正しい」という立場に立って物事を判断していることの危うさに、気づかせてくれます。仏さまの教えを聞く中で、日々の生活を送らせていただきましょう。

合掌